

# あなたの声を町政に

一般質問は、14人の議員が23項目にわたり諸問題を質しました。



岩井美保子議員

**問** 母の介護を行うため、電動ベッドを借りる準備を進めていた矢先、私が骨折事故を起こし15日間寝たきりになり、プロの介護してもらったことになった。

この貴重な体験から、在宅介護について問う。

(1) 在宅介護の指導は、かかりつけ医とヘルパーに依存するののか。

(2) 町独自で研修会・講習会を開催されるののか。また他の取り組みがあるののか。

(3) 在宅介護で一番困ることとは在宅医療である。どこまで支援できるののか。

**答** (山口隆之町長)

(1) 保健福祉センターなどにある地域包括支援センターを総合窓口としている。必要に応じて指導や紹介等を行い、相談は電話でも受けている。

## 在宅介護支援策は

### 大きな課題として取り組む

(2) 社会福祉協議会に「家族介護教室」の開催を委託しており、年に2回講演会や実技指導講習を実施している。

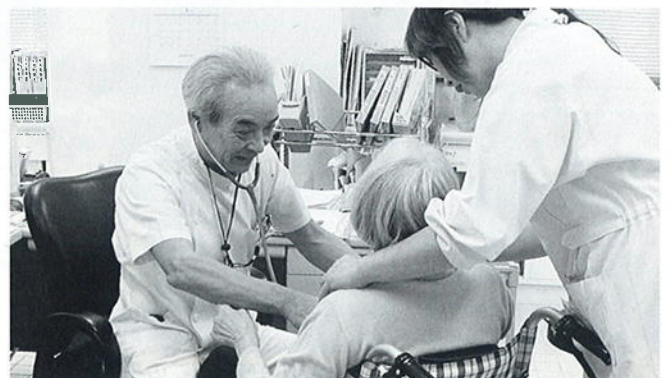
そういった介護と医療の連携、仕組みづくりについて町内医療機関、直営診療所、介護施設、社会福祉協議会、さらに広域的に鳥取大学付属病院や米子の総合病院を含めながら検討を行っている。



みんな元気で～大山賛歌体操ができました

## 大山診療所の今後は

### 関係機関に強力に要請



診察中の芦田先生

**問** (1) 医師確保の進捗状況は。

(2) 町民の思いが町長に伝わっているののか。

**答** (山口町長)

(1) 大山診療所の医師の確保の件では、町民の皆さんに大変ご心配をおかけしている。

当面3月末までは芦田先生に診療をお願いしている。

4月からの医師の確保については、現在関係の

各機関に強力に要請している。

(2) 大山診療所の存続については、「大山診療所を閉鎖しないでください」という地域住民の皆さんの切なる願いを座談会や会合などいろいろな機会を通じていただいている。

4月から医師不在で診療所を閉鎖する事態とならないよう、あらゆる方法を視野に入れ、医師の確保に全力を尽くしたい。(3) 民間企業への売却は、現在のところ考えてない。